

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 66 号

平成25年9月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会（北里大学
海洋生命科学部同窓会）

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次／三陸復興風景 P. 1

平成25年度三水会定期総会報告 P. 2

〃 P. 3

小林正典先生を偲んで P. 4

東日本大震災後の三陸での教育研究活動 P. 5

関西地区親睦会発足会 P. 6

海洋生命科学部北里会 P. 7

掲示板 P. 8



『平成25年度 三水会定期総会報告』

平成25年5月18日(土)午後6時より北里大学白金キャンパス薬学部1号館5階1507教室において平成25年度三水会定期総会が開催されました。総会構成員52名中、本人出席39名、委任状提出10名、欠席3名の定足数確認後、議長団の選出に移り、議長に水産食品学科4期：伊藤知尋氏、議事録署名人に水産増殖学科2期：田代茂年氏と水産食品学科3期：藤森年三氏を推薦、承認されました。

その後議事に入り、第1号議案の平成24年度事業報告及び収支決算報告、平成24年度監査報告が各担当者より報告され承認、続いて第2号議案の平成25年度事業計画案及び予算案が各担当者より説明され、原案通り承認されました。そして、第3号議案の代議員交替について会長より説明され、承認されました。

総会終了後、来賓にお招きいただきました緒方学部長より海洋生命科学部の近況等の報告をいただきました。また、在学生の就職活動に卒業生からの協力をこれからも継続してもらえるように希望されました。

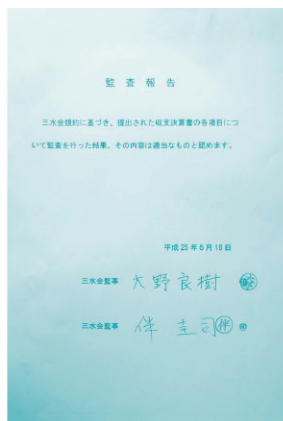
『平成24年度事業報告』

1. 会報の発行
同窓生の動向、海洋生命科学部の現状、および各種情報を含む会報を平成24年9月と平成25年3月に二回発行した。
2. 三水会ホームページの运营管理
会員に対し本会の各種情報を提供した。
3. 会員の現状の把握
全学同窓会と連携し、会員情報の正確性の向上に努めた。
4. 親睦会の開催
関西地区の会員を主な対象とした親睦会を平成25年1月27日に大阪市にて開催した。
5. 同期会等の助成
研究室同窓会および地方親睦会等、卒業生による集会の費用を一部助成した。
6. 学部・学生との懇談会の開催
学部教員および在学生との懇談会を開催し意見交換を行った。

平成24年度収支決算書

平成25年3月31日現在

支出の部			収入の部		
科 目	予算額	決算額	科 目	予算額	決算額
1. 事業費	5,500,000	4,938,551	1. 部会助成金	4,530,000	4,530,000
(1) 会報の発行費	2,100,000	1,960,836	2. 会報郵送料補助	624,000	624,000
(2) 三水会HPの運営費	200,000	205,059	3. 前年度繰越金	2,509,837	2,509,837
(3) 親睦会の開催費	200,000	200,000	4. 預金利息	3,000	746
(4) 同期会等助成費	200,000	90,000	5. 雑収入	500,000	743,000
(5) 大学・学生との懇談会費	100,000	72,100	6. 講演会開催費	1,300,000	1,300,000
(6) 課外活動助成金	200,000	200,000			
(7) 就職ガイダンスの開催費	250,000	93,780			
(8) 漁船海難遺児育英会寄付	50,000	50,000			
(9) 三水会創設30周年事業費	2,200,000	2,066,776			
2. 運営・管理費	2,370,000	2,026,211			
(1) 印刷・通信費	420,000	249,842			
(2) 会議費	700,000	647,521			
(3) 総会費	250,000	253,010			
(4) 事務局費	950,000	818,288			
(5) 慶弔費	50,000	57,550			
3. 予備費	1,596,837				
4. 次年度繰越金		2,742,821			
合 計	9,466,837	9,707,583	合 計	9,466,837	9,707,583



7. 課外活動助成
クラブの活動経費、大学祭及び体育祭費用の一部を助成した。
8. 就職ガイダンスの開催
各分野の卒業生による就職ガイダンスを海洋生命科学部在学生を対象に、相模原キャンパスにて開催した。
9. 漁船海難遺児育英会寄付
漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し、寄付を行った。
10. 東日本大震災に係る支援活動や義援金活動の実施
平成23年3月11日に発生した東日本大震災で大船渡市内三陸町にも甚大なる被害が発生したことに伴い、被災された三陸町の方々を支援するため、昨年度より引き続き募金活動を行った。

平成25年度予算

支出の部		収入の部	
科 目	予算額	科 目	予算額
1. 事業費	3,350,000	1. 部会助成金	4,877,000
(1) 会報の発行費	2,150,000	2. 会報郵送料補助	641,000
(2) 三水会HPの運営	200,000	3. 前年度繰越金	2,742,821
(3) 親睦会の開催	200,000	4. 預金利息	3,000
(4) 同期会等助成費	200,000	5. 雑収入	10,000
(5) 大学・学生との懇談会費	100,000		
(6) 課外活動助成金	200,000		
(7) 就職ガイダンスの開催費	250,000		
(8) 漁船海難遺児育英会寄付	50,000		
2. 運営・管理費	2,370,000		
(1) 印刷・通信費	420,000		
(2) 会議費	700,000		
(3) 総会費	250,000		
(4) 事務局費	950,000		
(5) 慶弔費	50,000		
3. 予備費	2,553,821		
合 計	8,273,821	合 計	8,273,821

11. 講演会と三水会創設30周年祝賀会の開催

北里大学同窓会との共催により、第44回北里大学同窓会講演会を平成24年11月3日に、東京池袋のサンシャイン文化会館で開催した。これに続き平成23年3月11日に発生した東日本大震災で一時中止とした三水会創設30周年記念祝賀会をサンシャイン水族館で開催した。

12. 海洋生命科学部へ学部旗の寄贈

学部名称の海洋生命科学部への変更に伴い、新たに学部旗を新規作成し寄贈した。なお、従前の学部旗は6期生の寄贈による。

『平成25年度事業計画』
1. 会報の発行

同窓生の動向、海洋生命科学部の現状、および各種情報を含む会報を平成25年9月と平成26年3月の二回

発行する。

2. 三水会ホームページの運営管理
会員に対し本会の各種情報を提供する。

3. 会員の現状の把握
全学同窓会と連携し、会員情報の正確性の向上に努める。

4. 親睦会の開催
各地区の会員を対象とした親睦会を開催する。

5. 同期会等の助成
研究室OB会及および地方親睦会等、卒業生の集会の費用の一部を助成する。

6. 大学・学生との懇談会の開催
学部教員および在学生との懇談会を開催し意見交換を行う。

7. 課外活動助成
クラブの活動経費、大学祭および体育祭費用の一部を助成する。

8. 就職ガイダンスの開催
各分野の卒業生による就職ガイダンスを海洋生命科学部在学生を対象に行う。

9. 漁船海難遺児育英会寄付
漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し、寄付を行う。

10. 東日本大震災に係る支援活動や義援金活動の実施

平成23年3月11日に発生した東日本大震災で大船渡市の三陸町にも甚大なる被害が発生したことに伴い、被災された三陸町の方々をご支援するため、引き続き義援金募金活動を行う。また、義援金の寄付先の選定については、三陸町の復興に資するところについて協議の上で選定することとする。



—小林正典先生を偲んで—

水産増殖学科3期生
長谷川 一敏

2013年1月25日、肺炎のため83年の生涯を閉じられた小林先生、4月中旬ご家族より納骨を済ませた旨のお知らせをいただきました。

5月の好天に恵まれた日、生花と“雪つこ”持参で先生の生まれ故郷長野県富士見町を訪ねました。JR中央線沿いの山梨、長野県境の富士見高原にも遅い春が訪れ、淡い緑の山々が美しく迎えてくれました。中央道小淵沢インターより車で10分程のところに菩提寺の鹿島山三光寺があり、お墓はそこよりJRの線路を跨いだ高森地区共同墓地にありました。

墓石後方には険しくも美しく聳え立つ八ヶ岳、正面には南アルプスの山々そして遥かに雪を頂いた霊峰富士が目に見え込んできました。「どうだ、いい所だろう」先生は必ず言うと思いました。

私が先生と初めてお会いしたのは1975年4月のことでした。入学当初よりバスケットボール部に入学、そのまま三陸でも同部に在籍したところ、当時バスケットボール部はバレーボール部と合同で球技愛好会としての登録で、先生は

その顧問を務めておられました。当時、佐々木旅館大広間で模様された新入部員歓迎コンパの宴席で「呑めるかと、酒を注がれ」酔うほどに豪快に語るお姿に圧倒されたのを今でも鮮烈に思い出します。

それから38年間、公私に亘りご指導いただきました。

先生は1973年、長野県水産試験場より前年に開学した北里大学水産学部水族病理学研究室教授として赴任し水産解剖学、水産病理学等を学部在籍中の23年間に延べ3,444名の学生に教鞭をふるわれました。その頃、養殖と魚病との因果関係に興味のあった私は、4年進級時には迷わず病理学研究室を選択しました。現場第一主義の先生には、鱒類、鯉、ホタテ等の調査やサンプリングに岩手県内外にお供し、とりわけ魚病発生の原因究明については、生産者の方よりの聞き取りは徹底して、気が付くと午前0時をはるかに過ぎることも度々でしたが数時間後、朝の給餌には現場で魚の観察をしていたお姿がとても印象的でした。

私はそんな先生に養殖を学び卒業後は山梨県富士北麓にある養鱒場に勤務し今年35年目になります。先生との数多くの思い出のひとつ

つに1984年6月から一年間、先生の紹介により当時の農水省支援団体「日中農業農民交流協会」より、中国四川省から派遣された研修生2名をお預かりし指導したことです。先生はこの3年程前より（略称）「日中農交」の依頼で中国東北部を中心に内水面養殖の調査、指導に度々訪れていました。

中国では古くより湖沼等で鯉科の養殖は行われていましたが、企業ベースでの取り組みには程遠いレベルのものでした。そこに招かれた先生は養殖以前の環境問題から最終的な経営までを各地水産局等で講演や指導を続けられていました。そんな折り訪れた中国中央部に位置する四川省で、各地の豊かな水資源を目にし流水養魚の個



1991年12月3日 上諏訪温泉にて

値観を説きました。その後、四川省水産局より派遣される3名の研修生の内、節ジセンさん28歳、陳エイネイさん26歳の2名を受け入れることになりました。

当養鱒場は都心より電車で100分程の所ですが、先生は三陸より上京する度に彼等を激励に訪れました。

研修も4ヶ月を経過した10月、先生と彼等と私と車で3泊4日の研修旅行に出かけました。岐阜県、滋賀県、長野県の各水産試験場の研修や、鮎、鰻、鯉、鱒類の各養殖場を10件以上視察しましたが、行く先々で手厚い指導を受けました。

そして一年間の研修で養殖技術を取得、また日本の文化、食生活にも親しみ、体力的にも見違えるほど逞しくなった彼等に「よし、大丈夫」と、先生は目を細めながら中国人初の弟子たちを送り出しました。

その後、1996年に大学を定年退職されてからは故郷の信州安曇野に新居を構え、奥様と過ごしておられました。そこには卒業生が度々訪れては賑やかな日々を送る一方、趣味の一つ全国各地の古城巡りに出かけては資料収集や写真整理等、熱心に行っていました。また、地域活動にも尽力され地元

松川村では「憲法9条を守る会」の後見を勤め、戦争を知らない世代の人達に対し自らの体験を通じて平和の尊さをとき続けました。そして、母校の旧制松本高等学校同窓会では寮歌の編集や広報誌発行等、最後まで精力的に活動されていきました。

時折私もお訪ねしては奥様を交え楽しい一時を過ごさせていただきましたが、そんな時も気に係るのは水産業界のこと、特に養殖現場の現状等お話する度に環境、流通、経営に関する苦言を何時も宿題としてお土産に頂き帰りました。

私の本棚には未だ処理できていないお土産が山積みになっています。

先生、万年一年生でなかなか進級出来ない不肖の弟子を見捨てず、今までご指導頂きまして本当に有難うございました、ご恩は生涯忘れるものではありません、どうぞ静かに休みください、そして何処かで見守って下さい。

結びに、ご家族の衷心よりお悔やみと先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

合掌

〈追記〉

小林先生のお墓の在所等の情報は長谷川まで、下記ご連絡ください。

kazu_h1954@yahoo.co.jp

東日本大震災後の三陸での教育研究活動

北里大学海洋生命科学部

水圏生物学研究室

(旧海洋基礎生産学研究室)

難波 信由

海洋生命科学部が相模原キャンパスに移転してから二年半、新校舎を拠点として教育研究活動を開始してから一年が経過しました。そして、キャンパス移転と講義や学生実験などに追われた半年近くの間は、三陸での教育研究活動を再開できませんでした。このような状況を脱する契機は大船渡市役所に勤務する佐藤直司氏(水圏生態学研究室の卒業生)からの「三陸町養殖海域の水質調査」再開依頼でした。

2011年9月から再開したこの調査は旧三陸町時代から30年以上続いており、井田齊先生、早川康博先生、河原栄二郎先生、退職後の野村節三先生が担当された後、2007年からは加戸隆介先生と私が担当していました。このような契機で再開した三陸調査は現在まで毎月1回のペースで続いていて、吉浜、越喜来、綾里海域を対象とした調査結果からは養殖に支障をきたすような大きな水質変化は認められず、震災後も安全

できれいな三陸の海が保たれていることに安堵しています。

この三陸調査は卒論・修論研究でもあり、毎回、研究室の学生と一緒にを行っています。学生達は率先して参加しています。特に、今年度の4年生からは三陸を知らない世代になり、参加する意思を持つ学生がいなくなるのではと心配しましたが、全員が参加の意思を表明しました。そして、三陸に行った学生は皆、三陸が好きになったようで、就職活動などが重なり参加できない学生は「今回はダメか」と悔しがっています。一方、大きな悩みも抱えています。船酔いで調査ができない学生の多さです。崎浜を出港して10分、作業を始めたとたんフリーズの学生もいて、今年度は女子学生2名、男子学生1名の3名しか調査Crewを確保できていません。しかし、ひどく船酔いした後で、もう一度行きたい、リベンジしたいという学生もいて、三陸は今の学生にも魅力的なんだなと思ったりしています。

ところで、海のない相模原で学ぶ学生へのフィールド実習の強化を目的として、来年度から「海洋実習」が開講されます。その中には三陸キャンパスを利用した実習も含まれ、2年生約70名が参加す

る予定です。3年間で三陸の地で過ごした卒業生の皆様には遠く及ばないかもしれませんが、この実習に参加する学生が本当の海と自然を体感してくれればと期待しています。

最後になりましたが、震災後の三陸での教育研究活動に多大なご協力と暖かいご支援をいただいた多くの皆様に深く感謝いたします。



関西地区親睦会発足会

世話人 田代茂年（2A）

去る7月15日（月）「海の日」、ホテルグランビシア大阪20階孔雀の間にて関西地区親睦会発足会を開催いたしました。

関西地域の卒業生は、既に500名を突破し、関東地区に次ぐ規模となっております。

多くの卒業生の方々にお集まりいただき、お互いの旧交を温め楽しみ元氣になって、また明日から頑張っていたことが本会の最大の目的であります。

そして、この「三水会関西地区親睦会」を定期的に毎年開催するため有志の方々に発起人になっていただき設立作業を進めていきます。

発起人の方々です。

西村直也（2A）、上田俊郎（5A）、河村尚之（6F）、水島正信（7F）、奥村忠幸（8A）、小林義和（9A）、馬場洋介（12A）、塩田浩太（15A）、向井昭博（19A）、岩城仁（22F）、高坂友和（24F）、吉武達夫（37F）

また、世話人として13期の源裕次さん、23期の北吉直子さんと田代が参画いたします。

さて今回は、親睦会発足ということで、緒方学部長、井田先生、神谷先生、山森先生、加戸先生、

加えて本部から前会長の長谷川さんにご出席頂くという、超豪華な顔ぶれになりました。

先生方には、いろいろとお忙しい中、わざわざ関西にまで足を延ばすことにご快諾いただき、誠にありがとうございます。

おそらく、これまでもこの後も、OB会でこれだけのメンバーが揃うというのは無いと思います。

世話人による開催の挨拶のうち、山森先生に乾杯をしていただき、食事をとりながら先生方のご講演を拝聴いたしました。

井田先生、山森先生からは三陸の震災直後から現在までの2年4か月をお話いただき、崎浜、浦浜の惨状、そして瓦礫は無くなりきれいにはなっても人々の生活、街並みが戻っていない現実から復興には長い時間がかかることと忘れずに継続した支援の大切さを改めて感じました。

神谷先生は、開学から間もないころの三陸、当時の研究室の様子や先生方の苦労話、学生生活の様子などをお話いただき、大変懐かしい思いで傾聴いたしました。

現役の加戸先生からは「学術的震災復興支援プログラム」として津波と地盤沈下が越喜来湾の潮間帯生物相に及ぼす影響、大船渡湾の外來フジツボ相と環境への影響

について講演され、この未曾有の災害による生態系や水産業への影響を捉えることで、今後への展望・対策を的確かつ確実に打っていくという希望に満ちた講演で、地元への貢献として大いに期待できるものでありました。

緒方先生からは、大学として海洋生命科学部は相模原キャンパスに置き、三陸は研究の場として広く活用するとの決定と学部としての当面の大きな課題が「就職」にあることからOBである三水会会員に対しては、強力な就職支援のご要請がありました。

長谷川前会長からは、三水会創設時の話がされ、今やホームペー

ジが出来、6,000人も会員を抱える組織に育っている。学舎は相模原となりましたが、三陸で

培われた精神は変わりなく受け継

がれていくものであり、その一役

を三水会が担っていくものである

との心強いお話でありました。

そして、サプライズは向井昭

博さん（南播磨

海洋牧場 代表

取締役）からの

スズキの差入れ

と緒方先生の奥

様の飛入りで



シェフにより料

理され、おいしくいただきました。奥様は、同期の方とも歓談され、大変華やかな雰囲気になりました。

ただ今回、これだけの超豪華メンバーを揃えながら、世話人の力量不足のため、参加者数が25名と少ない結果となり、誠に申し訳ありませんでした。

より多くの会員に出席してもらえるよう、発起人の方々と検討協議しながら本会を盛り上げていく所存でありますので、今回に懲りず、ご参加の方よろしくお願い申し上げます。

なお、ご出席の先生方からの過分なご援助、本学からも援助金をいただき、費用面で苦しいところ大変ありがたく、心より感謝申し上げます。

以上



海洋生命科学部北里会

北里三陸湧昇龍部 主将 3年
山本 悠司

この度は北里大学同窓会準会員課外活動奨励賞に推薦をしていた

き誠にありがとうございます。このような形で私たち海洋生命科学部北里会体育会・文化会所属北里三陸湧昇龍部の活動を評価していただいたことを、部員一同心よりうれしく思っております。部員を代表いたしまして深くお礼を申し上げます。

私達北里三陸湧昇龍部は、3年生6名、2年生8名、1年生20名の総勢32名で活動している学生よさこいチームです。震災後、学部の移動と共に相模原キャンパスに拠点を移し、関東地方を中心に活動をしています。

今年は5月に行われた相模原のお祭りから始まり、岩手県盛岡市や葛西臨海公園のお祭りにも参加しました。さらに、相模原市においては地域での盆踊りなどのイベント、野球場での試合前の演舞などをさせていただきました。どのイベントに対しても皆楽



しく練習に取り組み、地域を盛り上げています。よさこいのお祭りは、私達のような学生チームだけではなく、親子チームや御年配のチームなど老若男女問わず沢山の方々とよさこいを通して交流することが出来ます。そのため大学内だけでは体験することの出来ない素晴らしい経験ができました。



私達は踊ること以外にも、新しく衣装をデザインしたり、新曲を3年生で考えたりするなど毎年活動全体を盛り上げています。最後になりますが、このような賞をいただいたのは、震災後でもこのような素晴らしい部活を残してくださった顧問の先生、OB・OGの先輩方、また活動をしていくにあたりお世話になった全ての方々のおかげだと思っております。この場をお借りして改めて深くお礼を申し上げます。

今回このような賞に推薦していただいたことへの感謝の気持ちを忘れずに、より一層活躍できるように日々努力してまいりますので、これからもご支援の程よろしくお願いいたします。

海洋生命科学部北里会

潜水部主将 3年
有馬 史織

この度は北里大学三水会課外活動奨励賞という形で、我々海洋生命科学部北里会潜水部の活動を評価していただきましたこと、部員一同心よりうれしく思っております。部員を代表いたしまして、深くお礼を申し上げます。

我々潜水部は、震災後、学部の移動とともに三陸キャンパスから相模原キャンパスへと拠点を移して活動しています。潜水部はおも

に静岡県沼津市の獅子浜で活動を行っています。ここでは、ライセンスの取得をはじめ、フライングやスキントレーニングなどを行って部員一同安全に楽しく潜水活動をしています。また夏には三陸で合宿を行い、海洋生命科学部のOB・OGの方々が立ち上げたリトル越喜来というボランティア団体の海底清掃ボランティアに参加させて頂くなどして三陸での活動も行っています。私たちが潜水部は三陸から離れて活動すること



を助けた住民の皆様も含めて三陸のために潜水部にできることを考え、「海底清掃ボランティア」に参加させて頂いております。



となりましたが、私たち潜水部のベースは三陸にあります。三陸の自然、特に海に関してはほかの学生よりも良さを知っているでしょう。震災で傷

最後になりましたが、今回このような光栄な賞を受賞できたのも、今までご指導してくださった部長の朝日田先生、OB・OGの先輩方、また活動をしていくにあたりお世話になったすべての方々のおかげだと思っております。この場をお借りして、改めて深くお礼申し上げます。現在は三陸時代とは違い潜ること自体にも時間と労力がかかりますが、皆様のおかげで関東でも活動することが出来ています。今後もより一層充実した活動を目指していきますので、ご支援、ご指導のほどよろしく願います。

を助けた住民の皆様も含めて三陸のために潜水部にできることを考え、「海底清掃ボランティア」に参加させて頂いております。



“ 掲 示 板 ”



■ 北里大学同窓会研究奨励賞募集要項

- ・第25回募集対象学部：海洋生命科学部（水産学部）・獣医学部・医療衛生学部
- ・応募資格者（個人）：北里大学卒業後15年未満の研究者
- ・奨励金額：30万円（授与者には平成26年5月開催の総会席上で授与される）
- ・応募締切日：平成25年12月末日
- ・応募方法：応募要項と応募用紙は北里大学同窓会ホームページよりダウンロードできます。

■ OB会開催のお知らせ

I 海洋分子生物学研究室・水産利用学研究室卒業生の皆様へ研究室同窓会を下記の通り開催いたします。

日 時：平成25年10月12日（土）19時

場 所：グランドプリンスホテル新高輪 中国料理 桃李（03-3447-1139）

東京都港区高輪 3-13-1

会 費：7,000円（予定）

この度、八期生の岸田光代さんが熊本大学教授に就任されました。今回の集まりはそのお祝いを中心に行ないます。

申込先・問合せ先：高橋明義（5期生 海洋分子生物学研究室）

電子メール：akiyoshi@kitasato-u.ac.jp 電話 042-778-9145（ダイヤルイン）

II 潜水部主催のOB会を下記日程で開催します。

当日は井田先生をお迎えいたします、先生ゆかりの方々も大歓迎です。

開 催 日 時：平成25年11月3日午後4時～7時

開 催 場 所：「浜の台所 越喜来や」TEL 048-423-6567

埼玉県志木市本町 5-14-21 *東武東上線志木駅より4分

会 費：5千円（当日受付にて徴収）

申込問合せ：FA12・越川成二・TEL 090-2339-4062 PC：koshikawa@fukuwa.jp

■ 学園祭情報

2013年度北里祭は2013年11月2日（土）3日（日）の両日 相模原キャンパスで開催されます。

会員の皆様もふるってご参加ください。

～ 訃 報 ～

（水産学部元教員）

松浦 文雄 北里大学名誉教授（元北里大学長）平成25年3月10日逝去・享年97歳

橘高 二郎 北里大学名誉教授（元北里大学水産学部長）平成25年3月24日逝去・享年84歳

平野 禮次郎（元北里大学水産学部長・教授）平成25年7月1日逝去・享年85歳

（会 員）

中村 義幸（府録）水産増殖学科10期生 平成25年1月19日逝去

中村 進弥 水産増殖学科6期生 平成25年6月30日逝去

編集後記

東北地方では平年より10日以上遅い梅雨明け、日本海側や中国地方での集中豪雨、四国地方の少雨と日本列島各地で災害や天候不順が続いているようです。震災や原発災害の傷も未だ癒えぬ中、会員の皆様はこれらの天候以上に荒れ狂う社会情勢の波の中で、頑張っておいでになることと思います。

岩手県も横浜に東北再生支援ショップ「愛と勇気とサンマ」を開店したとのことです。（横浜市中央区元浜町4-36、Tel 045-263-9104）みなとみらい線の馬車道駅から3分という横浜の中心街です。横浜観光のついでに寄ってみてはいかがでしょうか。海洋生命科学部も相模原キャンパスへ移転して2年、新校舎に移ってから1年が経ちました。様変わりした相模原キャンパスを見に学園祭を訪ねてみるのも良いかもしれません。